

(別添3)

【那覇市】

校務DX計画

1 現状・課題

那覇市では、校務の効率化により教職員の負担軽減を図るとともに、学習ログ等の教育データ活用による教職員の指導力の向上を校務DXで目指していく。

その実現に向けて、「GIGAスクール構想の下での校務DX化のチェックリスト」を踏まえて、確認できた主な課題を以下に示す。

- (1) 宿題やテストのクラウドサービスやデジタルドリルの活用は、まだ十分に進んでいるとはいえない。そのため、教育データの収集・活用が限定的である。
- (2) 保護者への連絡や調査依頼については、依然として紙媒体の実施が多く見られる。学校から教員に紙で提出を求めている書類も依然として多く残っている。また業務にFAXを使用するケースも多く、ペーパーレス化・効率化が十分に進んでいない。
- (3) 校務支援システムの名簿情報は、新入学児童生徒について毎年度教員が手入力するなど、不合理な作業が依然として残っている。
- (4) チェックリストの結果から、デジタル化の対応は学校によりバラつきがある。市全体としてDX化の底上げが必要である。

2 課題解決に向けた取組

(1) 学習アプリやデジタル教材等の標準化

市全体として、データを活用した学習指導を進めるにあたっては、データの取得や管理方法を標準化していく必要がある。データ活用を促進するため、学校に導入されている学習アプリやデジタル教材について、教育委員会が引き続き主導し、有用なツールの選定・活用の促進を図っていく。

(2) 保護者との連絡ツール・調査物のクラウドツールの導入

保護者への連絡や調査依頼等の効率化は、学校だけではなく保護者の利便性を鑑みても優先的に取り組んでいく必要がある。学校からのお知らせや児童生徒の出欠連絡等についてはクラウド化（デジタル化）されつつあるが、

まだ、紙媒体による対応が多く残っている。今後は対象を広げ、アンケート等の調査を含めデジタル化を推進し効率化を図っていく。

(3) 各申請の電子決裁化

現状紙媒体で行っている学校内の申請業務の電子決裁化を進めていく。これにより、不必要な押印の廃止も進めることができ、ペーパーレス化、校務の効率化を図っていく。

(4) FAX・押印の見直し

校務の効率化・ペーパーレス化の阻害要因となっている FAX、押印・署名を求める書類について制度・慣行を見直していく。

(5) 次世代の校務支援システムの導入

校務支援システムの導入については、共同調達で共通仕様書の検討を行っており、那覇市は共通仕様書に基づく調達を行う予定である。

なお、共通仕様の検討において、当該システムのクラウド化を前提に、現状課題となっている非効率的な入力業務については、改善される見込みであるが、運用フェーズでも非合理的な入力作業を行わないよう各学校に対して操作方法の研修を実施し、周知を徹底していく。

(6) 知識や情報を共有するツールまたはシステムの導入

授業改善を図るため、情報共有ツールやポータルサイト等を活用し、教材やデータ活用の実践例等の共有化を図り、授業準備の効率化、知識の共有を行う仕組みづくりを行う。

(7) 教育データ利活用等 DX 実現に係る研修等の実施

DX を成功させるため DX の必要性や実践に係る研修に取り組んでいく。特にデータ利活用は DX には必要不可欠な要素であり、かつデータを組織で活用可能とするための継続的な維持管理が必要になるため、教育データの実践的な活用方法のみならず、データの管理方法の知識や実践力を身に着けることができるような研修を実施するとともに、意識醸成を図っていく。

また、上記の解決策に加えて、校務システムの更新のタイミングにおいてスムーズに次世代の校務システムへと移行できるよう、校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、セキュリティの高度化、業務フローの見直し等、望ましい校務の在り方に関する検討を実施する。